

水陸萬頃

第15号

奥州農業改良普及センター TEL：0197-35-6741 FAX：0197-35-6303
 いわてアグリベンチャーネット <https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/>



※水陸萬頃とは

「続日本書記」によると、胆江地域は「水と土地が豊かなところ＝水陸萬頃」と記されている。

『頑張る若手を紹介します』

新規就農者や新人農業者、若手農業者グループが奮闘する姿を紹介するコーナーです。

若手ピーマン生産者によるデータ活用の取り組み



令和5年からJA岩手ふるさと管内の若手ピーマン生産者5名が、環境モニタリング機器等を導入し、データ活用に取り組んでいます。



写真1 勉強会の様子

この取組には、農業支援サービス企業やJA及び県関係機関も携わっており、JA岩手ふるさと管内におけるデータ活用型農業の先駆けとして、チームを組み、様々な取り組みを実践しているところです。

5名の生産者は、各生産者圃場を持ち回りで勉強会を開催し、お互いのピーマンの生育状況や管理方法等を情報交換するほか、各ハウスの環境データを比較しながら意見交換を行っています(写真1)。

また、尻腐果や赤果等の障害果発生要因を探るために、開花した花に印をつけ、開花から収穫までの日数調査と収穫物調査を実施しています。

さらに、データ活用や野菜栽培の専門家が講義を行う「データ活用・栽培研修会」に参加し、環境データや植物生理等に基づく栽培管理を学び、実際の栽培管理に活かしています(写真2)。

研修会や勉強会には、JA岩手ふるさと園芸部会長も参加されており、経験豊富な視点から意見をいただいています。

今後、5名の生産者はお互いに情報交換しながら、引き続きデータを活用した農業にチャレンジしていく予定です!



写真2 研修会の様子

11～12月の作物ワンポイントアドバイス

🍷 水稲 [令和6年産の稲作は今年の稲刈り後から]

- ★春先の乾土効果を十分発揮できるように溝切り等の排水対策を行いましょう。
- ★移植後の「湧き」が起きるほ場は出来るだけ早くワラを浅くすき込みましょう。すき込時に「鶏ふん100kg/10㍎」や「石灰窒素20kg/10㍎」施用でワラの腐熟が促進されます。
- ★クログワイ・シズイなどの多年生雑草は乾燥や低温に弱いので、プラウ反転耕などで秋耕起（耕起深10～15cmが目安）をしましょう。

🌱 大豆 [適期刈取、汚損粒の防止]

- ★裂莢やしわ粒を防ぐため、収穫適期になり次第、速やかに収穫しましょう！
- 収穫適期：10月下旬～11月中旬 収穫に適する時間：10時～17時
- コンバイン収穫の適期：茎水分が50%以下（分枝がポキッと折れる）。子実水分は18%以下。
- ★汚損粒の発生原因をなくしましょう！
- 作業前の雑草・青立ち株の抜き取り。
- 刈り高10 cm以上厳守（土を入れないように！）。
- 異品種混入を防ぐためにも定期的なコンバインの清掃。

🍎 野菜 [来年に向けた土づくり]

- ★今年もどの品目でも病害虫の被害が発生しています。翌年の病害虫発生源にならないよう、栽培終了後の作物残さは持ち出し処分し、資材消毒を実施しましょう。
- ★安定生産に向けた土づくりを実践しましょう。
- ★土壌診断を積極的に行いましょう。
- 肥料高騰が継続しています。土壌診断をして適正肥料の供給を実施しましょう。ハウス栽培では養分過剰による生理障害等が発生しているケースもみられます。ECの高い方は作物の植え付けが無い時期にビニールを剥ぐことや緑肥栽培なども検討しましょう。

🍎 果樹 [晩生種の収穫と収穫後の管理（りんご）]

- ★「ふじ」等晩生種は、着色や蜜入り促進のため、遅くまでならせておく傾向がありますが、収穫時期が遅くなるほど樹上凍結の恐れが高まります。適期に収穫できるよう、計画的に作業を進めましょう。
- ★3～4年生の若木など、凍寒害の発生が心配される園地では、収穫作業後できるだけ早く、地際部から高さ50cm程度までホワイトンパウダーや白色の水性ペンキを塗布するか、わらを巻くなどして、対策を実施しましょう。

🌸 花き [りんどうの秋じまい管理と小ぎくの親株管理]

- ★りんどう：気温が下がり、茎が枯れたら刈払いを行います。今年はホソハマキの発生が多く見られますので、刈り払った茎葉は必ず焼却処分とし、病害虫の越冬源を絶ちましょう！今年1月に一旦消雪し、その後の寒さで株落ちした圃場が見られました。株保護のため土寄せ等実施しましょう。
- ★小ぎく：翌年の挿し穂採取のため、親株を秋から冬にハウスに移植します。ウイルスやウイロイドに感染した株を持ち込まないよう、よく観察しておきましょう。

🐄 畜産 [今から備える寒冷対策]

- ★寒さは、子牛の大敵！下痢や呼吸器病の原因となります。寒冷対策をしっかりと行いましょう！
- ・敷料を十分に敷き、乾燥した牛床にしましょう。（敷料は厚さ10cm以上がオススメ）
- ・牛舎内をコンパネやシート等で覆い、すきま風を防ぎましょう。
- ・カーフジャケットやカーボンヒーター等で保温しましょう。
- ・飲水をお湯に変えるだけでも飲水量アップに！餌の摂取量アップにもつながります。
- ・寒冷時はエネルギー要求量が増加します。代用乳、配合飼料を1～2割増加しましょう。

「金色の風」栽培研究会活動の支援について



作況試験ほ場で生育を確認する生産者ら

今年度は「金色の風」たよりの発行に加え、7月19日に胆江地方の「金色の風」と「銀河のしずく」の両栽培研究会と合同の現地研修会を北上市の県農業研究センターで行いました。

研修は、作況試験ほの生育状況を視察した後、室内で気象庁の1か月予報をもとに出穂～登熟期の水管理や品種ごとの施肥管理の他、品質・食味が最も優れる収穫時期について再確認しました。

終了後のアンケートでは、多くの参加者から「内容をよく理解できた」、「実際に活かそう」という声が聞かれました。

普及センターでは引き続き、生産者皆様のご要望にお応えし、産地全体で安定した品質を目指していきます。

御意見番！指導士の声

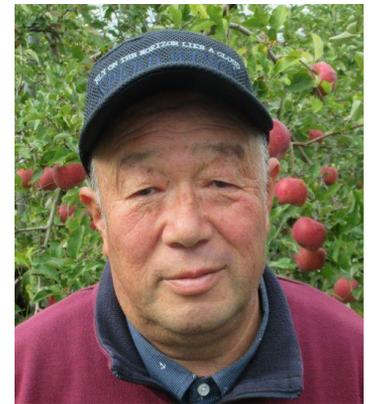
農業農村農業士

紺野啓(こんの ひらく)さん

奥州市江刺でりんごと野菜を栽培する法人を経営しております。持続可能な農業を目指し、国際的な視野を持ち、安心、安全な食と環境を提供し、人々の幸せと笑顔を育む産業でありたいと考えております。

当地域の農地を荒らさないよう野菜を作付けすることで地域の担い手として頑張っております。また、農業大学の学生の研修受け入れを行うなど、担い手の育成にも取り組んでいます。

今年度、りんごや複数の野菜・果実品目でJGAP認証とJGAP指導員資格を取得しており、安全、安心を届ける農業を続けていきたいと考えております。



農作物鳥獣被害対策について

管内では、イノシシの被害が増えています。

鳥獣被害対策は①被害鳥獣の捕獲、②柵の設置などの侵入防止、③誘引物の除去や刈払いによる隠れ場の解消等環境整備の3つが基本です。

狩猟者の確保、電気柵の設置等と合せ、作物残さの処分や草刈りの励行等地域全体で取り組みましょう。



クマ警報発表中!

【被害対策の3つの心得】

- ①山に入る時は出没に備える!
- ②エサになる物は片付ける!
- ③襲われたら、両手で顔と頭を守る!

詳しいクマ対策はこちらから→





農薬管理使用アドバイザーになりませんか！！



岩手県では、農薬の適正管理・安全使用に関して一定の知識有する方を「**農薬管理使用アドバイザー**」として認定しています。農薬について、正しい知識を学び、地域の人や農薬を購入する人に対して正しく安全な使用方法を広めませんか。

養成研修の詳細は、岩手県ホームページに掲載されていますので、右のように検索していただくか、普及センターまで問合せください！

◎養成研修会の日時、場所(いずれか1か所で受講)

回	月日	会場
第1回	令和6年1月22日(月)	花巻市文化会館
第2回	令和6年1月24日(水)	岩手産業文化センターアピオ

☆詳細は...

[岩手県農薬管理使用アドバイザーについて 検索](#)

ニューファーマー募集

胆江地方農林業振興協議会では、主要品目(ピーマン、きゅうり、トマト、りんどう、りんご、水稻、肉用牛、酪農)で新たに就農を希望する方を募集し、「胆江地方ニューファーマー」として重点的に応援します。お近くに就農を考えている方がいましたら、ぜひ普及センターまでお知らせください！

就農相談窓口の日

時期・期間

毎月第2木曜日(①13:30~、②15:00~)

内容

就農に向けた相談や情報収集したい方に対して、関係機関の担当者が相談に応じます。

申込み方法

相談日の3日前までに、事務局(普及センター)にお申し込み下さい。

新規就農者向けの研修会等の情報をお知らせするため、今年度に就農した方の情報も集めています。お近くで就農した方など情報がありましたら、教えていただけると幸いです。



所長のつぶやき



岩手山の初冠雪も観測され、大分この時期らしい気温になってきました。

気象庁によると、9月の全国の平均気温は、平年(1991~2020年の平均)を2.66℃上回り、1898年の統計開始以降で最も高くなり、7、8月もそれぞれ最高気温を記録しているので、3カ月連続の更新となりました。

アメダス観測値(奥州市江刺)をみると、最高気温が30℃以上の日は7月が19日、8月が30日、9月が14日、このうち、35℃以上の日も7月が6日、8月が5日と多く、夜温も高く経過していました。

農作物や家畜、そして人にも厳しすぎる夏で、栽培管理等には大変御苦労されたことと思います。

温暖化を背景に、多くの要因が重なり記録的な高温になったようですが、今後もこのような夏が続くことが心配されます。

普及センターでは、農作物の暑熱対策の技術指導に加え、ハウスの遮熱塗布材などの新技術の実証に取り組んでおりますが、今後も、皆様に新たな技術をお示しできるよう、取り組んでいきたいと考えております。

今冬も高温傾向が続くとの予報ですが、穏やかな冬になってほしいと思っております。